

平成 27 年度幕張西地区 区民対話会 議事要旨

1 日時 平成 27 年 11 月 1 日（日） 14:00～16:10

2 場所 幕張西公民館

3 参加者 区民 29 名、区職員 3 名

（参加区民の所属団体）

第 30 地区町内自治会連絡協議会、第 30 地区内単位自治会（内 9 自治会）、
社会福祉協議会幕張西地区部会、第 606 地区民生委員・児童委員協議会、
幕張西中学校区青少年育成委員会、幕張西地区スポーツ振興会、
幕張西地区老人クラブ連合会、NPO 法人幕張西スポーツクラブ、
千葉市消防団第 18 分団第 3 部、幕張西コミュニティづくり懇談会、
幕張西中学校 PTA、幕張西小学校 PTA、千葉市青少年補導員

4 テーマ 地域団体の連携について

5 議事内容

(1)開会及び参加者自己紹介

(2)昨年度対話会の振り返り

配布資料により、昨年度対話会の主な意見及びそれに対する市の対応及び見解を説明。

(3)対話「地域団体の連携について」

主な意見は以下のとおり。

■現状

- ・地域の大きな行事として、盆踊り大会と運動会がある。これらの主催は地区連協だが、それ以外の団体もそれぞれ役割を担っている。例えば、スポーツ振興会はスポーツに関する専門性を活かし、育成委員会は警備等を担うなど、各団体が分担・協力することで行事を開催できている。
- ・その他、各団体が行う個別の行事や事業にも他団体から協力や参加があり、団体間の連携はとれている。
- ・育成委員会が行う防犯及び子供の見守りのためのパトロールに、PTA や自治会から協力いただいている。団体を超えて連絡を取り合うこともできており、現状に不自

由や不便は感じていない。

- ・地域でのパトロールとして、育成委員会が主に夕方実施するものと、自治会が主に夜間に実施するものがあるが、両者は目的が異なるため、統合することは考えられない。
- ・パトロールは、団体ごとに実施する目的は異なる。育成委員会は子供の見守り、自治会は地域防犯を主な目的としている。地域住民が広く関心を持つことも大事であり、各団体が行うパトロールは一つに統合せずともよい。
- ・情報共有について、例えば不審者の出没情報などは、育成委員会やPTAだけではなく、地区連協などの各団体とも共有している。学校と各団体の間にネットワークができています。
- ・PTAでは、セーフティウォッチャーの登録が100名を超えており、学校や育成委員会からの依頼のほか、自主的な見守り活動も行っている。
- ・団体の事業の年間スケジュールは決まっており、大きな事業はあらかじめ他の団体に協力を依頼している。
- ・コミュニティ懇談会では、育成委員会と協力し、20年以上にわたり毎年5月に清掃活動を行っている。子どもの参加が多く、きれいなまちづくりに貢献している。
- ・消防団は他の団体と意味合いが異なるが、「地域のために」という目的は同じ。地域とコミュニケーションをとりつつ地域防災に取り組んでいる。その結果、地域の方から団員を紹介してもらったり、地区連協から防災訓練ややぐら組立を任せてもらうなど、地域から頼られる存在になってきたと感じている。
- ・コミュニティ懇談会は、団体間の横のつながりを作ることが役割だ。この地域では、各団体が積極的に活動しており、行事などでの協働もできているので、他の地域に比べれば横のつながりはあると感じている。
- ・団体間の横のつながりは、地区運営委員会とも関連する。前向きに取り組んでいきたい。
- ・特に地区連協との関わりのおかげで、他の地域以上に地域一体となった活動ができている。中でも、中学校や小学校との関係には大変満足している。先生も生徒も協力的で、190名くらいの子供たちが参加している。小学校の放課後遊び活動を指導してほしいとの要望もあり、月に1回子供たちに指導することとなった。
- ・地域で活動する団体の連絡先を地区連協で作っており、それを使って情報を共有できている。活動が重複しているなどの問題はない。

■課題

- ・地域には11団体ほどあるが、全体が集まることはほとんどない。そのため、情報共有には迅速な連絡網が重要になるが、現状の電話や文書では時間も手間もかかってしまい、いざというとき間に合わない。他の地域では、メールの利用が浸透しており一斉メールで済むというケースもあり、幕張西地区もそのような環境にしたい。

- ・地域の広報活動が重要。各団体で広報活動はやっているが、地域全体の広報は、Maws のホームページのみ。1 つの団体に任せるのではなく、地域全体で担うことが望ましい。地域全体での広報活動を充実させれば、地域の活性化につながるのではないか。
- ・地域活動の重複はないが、漏れている地域がないかは検討の余地があるのではないか。
- ・スポーツ振興会としては、増えている新しい住民を引き込めるよう努力したい。
- ・敬老会は各自治会で開催しているが、会場は自治会館などに限られ、人数の上限は 50 人程度。
- ・消防団として警防活動に取り組んでいる。今後は、各自治会の活動に参加するなど、消防団の活動をより効果的なものにしていきたい。

■要望

- ・Maws の活動が増え、活動場所となる施設が不足している。施設を作るにはお金がかかることは承知しているが、行政は必要性や要望を聞いてほしい。
- ・自治会長が 1 年で交代し、引き継ぎがうまくなされないと地域団体とのつながりが薄くなってしまう。自治会には、複数年は自治会長を務めることを検討してほしい。

(4)地域団体が連携するために — 「地域運営委員会」のご説明—

配布資料により、地域運営委員会の制度を説明。

■意見、質疑

- ・団体間の連携強化という観点で考えれば、現状でうまくいっているため地域運営委員会を作る必要はない。一方で、地域運営交付金により補助金の総額が増えることでメリットがあるかどうかを見極める必要がある。
- ・地域運営委員会の設置に関する条例などはあるか。
 - 条例はないが、要綱があり、手続き関係はマニュアルを整備している。
- ・学校開放施設の運営委員会は、地域運営委員会の構成団体となることは可能か。
 - 可能。スライド 12 に挙げた団体はあくまで例示に過ぎず、これ以外の団体も構成団体となり得る。
- ・学校開放施設のナイター施設は、管理が外部委託されており、利用者は抽選となっている。地域住民が優先的に利用できる枠を設けてほしい。
- ・地域運営交付金は、市から地域への補助金が増え良い制度のように見えるが、学校施設に関して言うと 20 年の間、ずっと市からの補助金が減ってきた事例があり、それと同じになるのではとの懸念がある。今後金額を減らすことはないのか。
 - 保障はできないが、当初の金額を維持したいと考えている。
- ・個別の補助金は減額される傾向にある。地域運営交付金を受けたとしても、今後減

- る傾向になるのではないか。
- ・ 青少年バスは廃止された。地域運営交付金も同様に先細りになっていくのではないか。
 - ・ 使わなかった補助金は市に返すのか。
→年度内に使わなかった分は返していただく。
 - ・ 地域運営交付金について、社協は統合されないのか。
→社協は市社協からの配分などがあり会計処理が特殊であるため、現在のところ、統合しないこととしている。
 - ・ 地域運営交付金を受けるとなると、事務手続きが煩雑になる。地域運営委員会での事務（各団体からの書類とりまとめや区とのやりとり）を担う者がいない。
 - ・ 地域運営交付金の事務手続きはどうなるのか
→各団体から地域運営委員会に書類を提出し、地域運営委員会から区に地域運営交付金の申請を行うことになる。
 - ・ 領収書は提出するのか。
→区に対して領収書の提出は求めないが、それに代えて事業報告書の提出等をお願いする。詳細は別の機会に改めて説明したい。
 - ・ 補助金の詳細な積算を含め、地域運営委員会のメリットとデメリットをより明確に教えてほしい。
 - ・ 既に地域運営委員会を作っている他の地域ではどのように課題を乗り越えたのか、話を聞いてみたい。
→要望があれば対象の地域の役員に打診したい。

(5)閉会